

黄色爪症候群について

黄色爪症候群は、慢性気管支拡張症や副鼻腔炎などの全身疾患が原因となり、全ての爪甲が黄色調を帯びます。抗リウマチ薬のブシラミン、ベニシラミンでも黄色爪になることがあります。

症状

- ①黄色爪：爪甲の伸びる速度が遅くなり、分厚く、黄色調になります。爪床部ではがれ、時に脱落します。爪甲の感染も起こしやすくなります。
- ②リンパ浮腫：下腿のリンパ浮腫を認めます。
- ③胸水貯留

治療

- ①原因疾患の治療
- ②ベタメタゾンジプロピオン酸エステル(リンデロン DP ゾル)外用：新しい爪甲が生え変わるまで約1年間継続します。